

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016 実施報告書

実行委員長 塩野崎 英二

(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016 は全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙、普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して実施しました。

本年は後援いただきました東京都の都民還元事業として開催期間中に会場周辺の海上で都民の方を対象としたヨット体験試乗会やレース観戦を行いました。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。

また、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟 (以下 JJYU) の名称、設立趣旨にもありますように、クラブとして参加頂いてクラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は海外から招待のロシア、韓国、香港、シンガポール、タイ、ニュージーランド、オーストラリアの 7 クラブと国内では北は北海道室蘭から南は鳥取県までの 16 クラブを迎えて開催しました。8 月 5 日はリオオリンピック開会式と同日開催となり、また来たる東京オリンピック 2020 への期待から海外から予定を上回る 7 か国ものジュニアセーラーや指導者たちが来日、盛大な競技会となりました。



トライアルレース

参加 129 選手中 116 名の選手が練習を兼ねてトライアルレースに参加しました。

トライアルレースでは運営役員も A・B 海面それぞれで運営体制の確認を行い、本レースに備えました。



トライアルレース（B海面）

開会式

今回の開会式はハーバーでなく立派なホテルマリナーズコート東京の宴会場ということで選手、指導者、大会役員も少し緊張気味の中、ジュニアセーラーの歌を BGM に選手が入場し華やかに始まりました。

選手入場整列着席の後、開会に先立って先日急逝された若洲ヨット訓練所指定管理者 NPO 法人マリンプレイス東京理事長藤沢誠様のご冥福をお祈りして参加者全員で黙とう致しました。

開会式は競技会委員長の JJYU 伊藤雅宣専務理事の競技会開会宣言、国旗掲揚、特別賞杯返還とレプリカ授与、競技会副会長の JJYU 佐藤精知夫副会長の競技会会長挨拶と続きました。

ご来賓としては、二名の方々にご挨拶を頂きました。業務多忙なところ江東区長山崎孝明様より心からの歓迎のお言葉を頂戴致しました。次に競技会の後援をお願いしている公官庁を代表して東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部国際大会準備担当課長原陽一郎様から激励の言葉を頂戴致しました。ご来賓として杉並区選出東京都議会議員の早坂義弘様、JSAF 名誉会長山崎達光様、茨城県行方市長の鈴木周也様、同市議会議員長の鈴木義弘様、江東区地域振興部スポーツ振興課長の佐藤祐樹様、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課中本玲未様をご紹介させて頂きました。

続いて少年ヨット憲章「山中湖宣言」を佐藤精知夫副会長立会いの下、江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの 6 名（小山すみれ、池田ももか、渡邊信幸、菅野こころ、菅野響、宮本あかり）、選手宣誓を江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの 3 名（吉田奈織、荒木智也、重松俊）の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に恒例の安全講習会、競技運営説明会を行いました。



選手整列



海外選手の入場



伊藤雅宣 JJYU 専務理事の競技会開会宣言



特別賞杯返還とレプリカ授与



佐藤精知夫 JJYU 会長代行の競技会会長挨拶



ご来賓 江東区長山崎孝明様



ご来賓 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
スポーツ推進部国際大会準備担当課長 原陽一郎様



山中湖宣言



選手宣誓



安全講習会



競技運営説明会（OP級初級者）

国際交流会

国際交流会は開会式会場そのままのホテル宴会場において、参加者は食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げられました。

今回のアトラクションは小林太郎様他2名による和太鼓演武と日本チームから海外チームまで参加した即席太鼓教室で今までにない和風の演出で国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。



競技会副会長 JYU 安井清副会長の乾杯発声



チーム紹介と記念品交換 ロシアチーム



香港チーム



ニュージーランドチーム



オーストラリアチーム



チーム紹介と記念品交換 シンガポールチーム



韓国チーム



タイチーム



和太鼓演武と即席太鼓教室



指導者による各クラブ紹介



会場では国際交流の輪が広がっていました

A 海面のレース状況

今競技会の A 海面はトラペゾイドコースを採用。国際 420 級/FJ 級は O3（アウターループ 3 周コース、レーザー 4.7 は O2（アウターループ 2 周コース）、OP 級上級者クラスは I2（インナーループ 2 周コース）にて実施しました。

【8 月 5 日（金）トライアルレース】

南風のコンディションの中、各種目 1 レースのトライアルを実施しました。途中風が弱まりシフティーな展開となり結果的には翌日以降の不安定な海面を予感させるものとなりました。

【8 月 6 日（土）レース初日】

気温 27-30℃、天気、快晴でしたが風速については若干物足りない結果となりました。

参加定数 国際 420 級：5 艇（エントリーは 6 艇）、FJ 級：8 艇、：OP 級上級者クラス：56 艇。

8：55 D 旗掲揚。風向 190-200° 6-8knt と良いコンディションでしたが、レース艇が海面に集まる頃には、少しずつ弱くなっていきました。風速が回復した 10：00 に国際 420 級/FJ 級がリコール艇有りでスタート。引き続きレーザー 4.7 が 2 度のゼネラルリコール後にリコール艇有りでスタート。最後に OP 級上級者クラスが 1 回のゼネラルリコールの後、準備信号 U 旗掲揚のもと、9 艇の UFD 発生とともにスタート。

スタート後、風向は徐々に東にシフトし、風速も弱まった為、国際 420 級/FJ 級はアウターループ 2 度目の 3 マーク、レーザー 4.7 級は 2 度目の 2 マーク、OP 級上級者クラスはインナーループ 2 度目の 1 マークにてコース短縮となりました。第 1 レース終了後、気温の上昇と共に風が弱まったため、ハーバーバックとし、早めのランチタイムとしました。

12：55 180° 6-8knt 風が出てきたため再度 D 旗掲揚。

13：42 国際 420 級/FJ 級からスタート。レーザー 4.7 まではオールクリアにてスタートした後、OP 級上級者クラスが潮と風向の変化により、ゼネラルリコールを繰り返しました。2 回目以降 U 旗を採用しましたが効果が無く、14：32 6 回目ようやくオールクリアにてスタートしました。

14：42 国際 420 級/FJ 級第 3 レースがオールクリアにてスタートし、引き続きレーザー 4.7 もオールクリアでスタートしました。

OP 級上級者クラスは 15：32 に第 3 レースがオールクリアにてスタートしました。

OP 級上級者クラスの最終艇フィニッシュが 16 時を越えた為、競技会初日のレースは各クラス 3 レース実施にて終了することとして、AP-A を掲揚してハーバーバックしました。

【8 月 7 日（日）レース 2 日目】

昨日と同じく気温 25-30℃、終日快晴のなか、台風の接近も懸念されましたが、ほぼ影響なく 9：45 に D 旗掲揚。しかし昨日にも増して潮流が速くコース設定に苦慮しました。

9：38 風向 100°、風速 7knt で、国際 420 級/FJ 級、続いて 9：43 レーザー 4.7 がオールクリアにてスタート。昨日同様 OP 級上級者クラスではゼネラルリコールに苦しめられましたが、10：04 にスタート。東のシフティーな風と強烈な潮流で、順位の入替わりも激しいレース展開となりました。

国際 420 級/FJ 級の第 5 レースは 11：19 スタート、OP 級上級者クラスが 11：24 スタート。比較的安定した風でこれから本番の戦いとしていたところでしたが、最終予告信号 12：00 には次のレースは間に合わないため、第 5 レースにて今競技会は終了となりました。



OP 級上級者スタートシーン



レーザー4.7 スタートシーン



国際 420 級・FJ 級スタートシーン



FJ 級レース風景



国際 4 2 0 級レース風景



レーザー4.7 レース風景



レーザー4.7 レース風景



OP級上級者レース風景



OP級上級者レース風景



海外チーム観覧艇

B 海面のレース状況

今回 OP 級初級者クラスは 28 名のエントリーでしたが、うち 4 名がチャーター艇でありました。チャーター艇の選手は、艇一式を受け取ったうえで受付を行って貰いました。

レースは予選・決勝戦方式とし、そのやり方に関して、競技運営説明会で説明しました。

予選は選手をあらかじめ一定のルールで、4 ディビジョンに分け、2 つのディビジョン同士が対戦し、計 6 レースで結果を出すこととしました。

決勝は、予選の結果の上位 13 艇と下位 15 艇に分け、最初に下位 15 艇が 2 レースを行い、次にそのトップ 3 艇と予選の上位 13 艇の計 16 艇で 2 レースを行って最終順位をつけることとしました。

【8月5日（金）トライアルレース】

トライアルレースの出艇前までにチャーター艇のセール番号が確定しておらず、エントリーも 22 艇であったので、セール番号の末尾が奇数と偶数に分けて三角コースでレースを行いました。レースは 13 時から夫々 2 レースの計 4 レースを行い、結果を掲示しました。

余談ながら、選手の中には「奇数・偶数」が解らず「2 で割れる数」と説明することが必要であったことが、印象的でありました。

【8月6日（土）予選】

第 1 レースを 10 時 10 分に三角コースでスタートしました。潮の影響を受けて帆走が十分にできない艇も出ましたが、1 レース目は無事終了しました。

2 レース目を 10 時 50 にスタートさせましたが、次第に潮の影響を受ける艇が多くなり、スタートできない艇が 4 艇、第 2 マークを回航をできない艇が 3 艇、トップ艇も第 3 マーク回航後の上りの帆走ができず、航路側に流される艇が多くなり、止む無く安全確保の観点から本レースをノーレースとしました。全艇を陸上に戻して待機とし、昼食時間としました

12 時 59 分に潮どまりとなり、レースを再開しました。第 2 レースを 12 時 50 分に再スタートし、以降風速も 3 m/s から 5 m/s 程度まで次第に安定した風となり、第 6 レースまで順調に消化しました。

予選の結果を掲示し、無事予選は終了しました。

【8月7日（日）決勝戦】

8 時 50 分に指導者・選手を集めて、改めて決勝戦の方式を説明し、予選結果の下位 15 艇と上位 13 艇に分け夫々識別リボンを渡しました。

決勝戦は極力、潮の影響を避けるために、コースをポンドの内側に寄せることにしてマーク設置を行いました。第 1 レースは 90°、2～3 m/s の風で 9 時 49 分に予選下位グループの 15 艇をスタートさせました。やはり潮の影響を受けて、十分に帆走できない艇もあり、3 艇がタイムリミットとなりました。

続けて同じグループでレースを行い、レース結果を本部船内で直ちに計算して、上位 3 艇を残し、他 12 艇は陸上に戻しました。

決勝戦は 16 艇で 2 回行いましたが、さすがに上位グループだけあって、安定した走りをみせ、風速も上がったこともあり、2 レースともに 10 分前後でレースは終了しました。

結果は最終成績表に示す通りですが、特筆すべきは、予選 18 位の YMFS ジュニアヨットスクール葉山の菅原なな選手が 6 位に入賞したことです。



競技運営説明会



OP級初級者スタートシーン



OP級初級者スタートシーン



OP級初級者レース風景



OP級初級者レース風景



レースを観戦する保護者の皆さん

海外招待チームの状況

今回の競技会にはオーストラリア・香港・ニュージーランド・ロシア・シンガポール・韓国・タイの7か国からレーザー4.7級5名・OP上級者級18名、計23名の選手及びコーチ・父兄22名、総勢45名が参加しました。

レース海面では各国コーチがコーチボートから自国選手へ大声で積極的に指示を出し、それに応じて各選手も他国に負けまいと真剣にセーリングを展開、日本選手も頑張っていたので、特にOP級は非常に白熱したレースとなりました。結果として国際交流個人対抗レースではレーザー4.7はロシア選手、OP級上級者クラスはタイ選手が優勝を飾り、選手・コーチ・父兄は大変喜んでいました。

今回の競技会について各国コーチ・父兄からは日本側のおもてなし・レースの運営等とても素晴らしいものであったとの感想を頂き、各国ともに来年もぜひ参加したいとの言葉を残してご帰国されました。



都民のための親子ヨット体験試乗会

競技会を後援いただいた東京都の都民還元事業として8月6日に親子体験試乗会・ヨットレース観戦会を行いました。当日は15家族31名の参加によりギグ2艇、ピクニックキャット1艇に交替して乗船し試乗・観戦を楽しみました。観戦したご家族からはお子様がヨットレースに出たいと言っていますとのお礼のメールを頂きました。



医療救護部から

連日30℃を越す猛暑の競技会で、熱中症等を心配しましたが、開会式後の安全講習会をはじめ、水分補給に関して十分な対策を取るよう参加選手、クラブの指導者に徹底したお蔭で、ほとんど問題なく競技会を終了することが出来ました。

これもアサヒ飲料株式会社ご提供の飲料水、お茶、サイダー等の飲物が競技会期間中に十分に配られたことも大きいと思います。

唯一、7日の昼過ぎに1名、着艇してから腹痛を訴えた選手がいましたが、救護ルームで胃薬を内服させ1時間ほど休ませたところ回復し元気になりました。



閉会式

競技会 3 日目のレース日程も予定通り終える事が出来ました。閉会式までの時間に艇の片づけや帰り支度をしながら、エスビー食品株式会社ご提供のカレールーで昨年から恒例のコロケを乗せて作って頂いたカレーライスの昼食を楽しみ、閉会式もほぼ予定通り開催することが出来ました。

高橋祐司競技会副委員長による成績発表及び表彰に続き、高橋有樹プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には秋山 翔君（浅虫ジュニアヨットクラブ）が選ばれました。

佐藤精知夫競技会副会長が競技会会長の代理挨拶をされ、海外チーム指導者代表としてニュージーランドのトーマー・シンホニーさんにご挨拶を頂きました。

国旗降納と高橋祐司競技会副委員長の競技会終了宣言で無事閉会式を終える事が出来ました。

主な成績

小澤吉太郎特別賞 JJYU 創設者小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップに溢れた選手を表彰しました。

秋山 翔 浅虫ジュニアヨットクラブ

JJYU 会長特別賞 「国内クラブ対抗レース」の上位 3 クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

第 1 位 葉山町セーリング協会

第 2 位 藤沢市青少年セーリングクラブ

第 3 位 ユースチーム東京

特別表彰

「文部科学大臣賞状・賞杯」「奥村純雄杯」 OP 級上級者 大澤 雄帆 葉山町セーリング協会

「国土交通大臣賞状・賞杯」「小澤吉太郎杯」 OP 級初級者 西田 帆七 葉山町セーリング協会

「東京都知事賞状・賞杯」 レーザー 4.7 坂井 友里愛 ユースチーム東京

「江東区長賞状・賞杯」 国際 420 級 蓮 千鶴・高仲 理子 霞ヶ浦高等学校ヨット部

「東京都ヨット連盟会長賞状・賞杯」 FJ 級 仲 美南・鈴木 せいら 霞ヶ浦高等学校ヨット部

国際交流個人対抗レース

OP 級上級者	第 1 位	Patihan Vorrasart	タイチーム
	第 2 位	Shawn Goh Aik Swee	シンガポールチーム
	第 3 位	大澤 雄帆	葉山町セーリング協会
レーザー 4.7	第 1 位	Daniil Maystrovskiy	ロシアチーム
	第 2 位	Penny Linton	ニュージーランドチーム
	第 3 位	坂井 友里愛	ユースチーム東京

国内個人対抗レース

OP 級上級者	第 1 位	大澤 雄帆	葉山町セーリング協会
	第 2 位	星野 高輝	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第 3 位	西村 拓真	横浜ジュニアヨットクラブ
	第 4 位	重松 駿	夢の島ヨットクラブ
	第 5 位	中島 優揮	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
	第 6 位	須永 笑顔	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第 7 位	重松 陽	夢の島ヨットクラブ
	第 8 位	園村 浩輔	YMFS ジュニアヨットスクール葉山

O P 級初級者	第1位	西田 帆七	葉山町セーリング協会
	第2位	増本 拓	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第3位	神木 宏斗	藤沢市青少年セーリングクラブ
	第4位	長谷川 啓吾	鳥取県ジュニアヨット協会
	第5位	池田 ももか	江東区立小中学校セーリング部
	第6位	菅原 なな	YMFS ジュニアヨットスクール葉山
	第7位	上條 久美子	江東区立小中学校セーリング部
	第8位	青山 若生	葉山町セーリング協会
	第9位	左近 麗咲子	葉山町セーリング協会
	第10位	松岡 達也	葉山町セーリング協会
レーザー4.7	第1位	坂井 友里愛	ユースチーム東京
	第2位	村野 龍典	ユースチーム東京
	第3位	桐井 航汰	江の島ヨットクラブジュニア
	第4位	渡邊 桜香	ユースチーム東京
	第5位	大久保 優輝	江の島ヨットクラブジュニア
	第6位	笹木 一輝	室蘭セーリング協会
国際420級	第1位	蓮 千鶴・福田 桃奈	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第2位	蜂須賀 真之介・岩田 慧吾	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第3位	青山 海維・山田 龍	葉山町セーリング協会
	第4位	岩間 里奈・糟川 麻衣	東京都立日本橋高等学校ヨット部
	第5位	吉田 真也・坂本 龍平	東京都立日本橋高等学校ヨット部
	第6位	宇田川 真乃・大橋 未奈	霞ヶ浦高等学校ヨット部
FJ 級	第1位	仲 美南・鈴木 せいら	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第2位	藤平 拓海・岡田 和也	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第3位	松本 飛龍・狩野 弁慶	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第4位	野口 柳太・岩村 尚弥	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第5位	吉井 稀世輝・高橋 一心	霞ヶ浦高等学校ヨット部
	第6位	柿沼 磨弥・中西 萌花	東京都立日本橋高等学校ヨット部





小澤吉太郎特別賞
秋山 翔（浅虫ジュニアヨットクラブ）



文部科学大臣賞状・賞杯「奥村純雄杯」
OP級上級者 大澤 雄帆（葉山町セーリング協会）



「国土交通大臣賞状・賞杯」小澤吉太郎杯
OP級初級者 西田 帆七（葉山町セーリング協会）



JJYU 会長特別賞

第 1 位 葉山町セーリング協会 第 2 位 藤沢市青少年セーリングクラブ 第 3 位 ユースチーム東京



国内個人対抗レース OP 級上級者入賞者



国内個人対抗レース OP 級初級者入賞者



国内個人対抗レース レーザー4.7 入賞者



国内個人対抗レース 国際 4 2 0 級入賞者



国内個人対抗レース FJ 級入賞者



国際交流個人対抗レース OP 級上級者入賞者



国際交流個人対抗レース レーザー 4. 7 入賞者



高橋有樹プロテスト委員長よりレース講評



佐藤精知夫競技会副会長が挨拶



海外チーム指導者代表 ニュージーランドの
トーマー・シンホニーさんが挨拶



エスビー食品株式会社様ご提供のカレールーを使った特製コロケカレーの昼食。